【授業科目】総合臨床実習前演習Ⅰ　Pre-Clinical training Guidance Ⅰ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
榎本 喜彦、高崎 昭彦、森 啓至、千原 猛 星野 真理、小菅 優子、杉浦 諭	２年次 後期	必 修	1	30	演習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／臨床検査は診断には欠かせない項目となっている。チーム医療演習Ⅰでは臨床検査技師の仕事を理解し、その責任と重要性について学んだ。その上で２年次までの科目を修得している。本科目は２年次までに習得した臨床検査学全般についての知識をまとめ、臨床検査技師としての役割と責任を認識させる。チーム医療の重要性を再認識し、多職種の重要性、必要性も合わせて教授する。臨地実習に臨むにあたり、特に医療を志す者としての自覚を養うことを目的として、3年次の臨地実習前に主要検査をオムニバス形式での講義を実施し学内での知識・技術のまとめを学修する。加えて、臨地実習後の3年生の臨地実習報告を聞き、臨地実習で何を学ぶかを考えさせ、疑問点を自ら質問することで、臨地実習前の知識や事前学習方法を確認させるとともに、臨地実習で必要な自ら学ぶ積極性を養う。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。
実務経験に関する 授業内容	基本的な臨床検査学の基礎と技術について臨地実習前に再度確認をおこなう。臨床検査技師として臨床経験を持つ教員が、各検査項目について測定原理、結果の見方などの解説をおこなう。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健･医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　２年次までに習得した臨床検査に関する知識を総合的に理解し説明できる。 ②　「医療人」として次年度の臨地実習に臨めることを目指す。 ③　「臨床検査技師」の自覚と知識、さらにコミュニケーション能力の必要性を理解できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第１回～５回　事前学習：２年次までに習得した知識・技能を他分野との関連性をもたせ復習しておく/指定の教科書・資料を事前に読んでおく（各３０分）。 第１回～５回：事後学習：各領域で知識の再確認をする/各回の講義で分からない事項は教員に質問するとともに各自で調べるようにする（各３０分）。 第６回～１５回　臨地実習の発表を聞き、学修していない病名や検査については各自で調べまとめるようにし、また臨地実習で何を学びたいかをまとめるようにする（各６０分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回　臨床における心電図検査について	榎本
	第 2 回　臨床における微生物検査について	森
	第 3 回　臨床における病理検査について	小菅
	第 4 回　臨床における輸血検査について	杉浦
	第 5 回　臨床における血液検査について	高崎
	第 6 回　臨床における臨床化学検査について	高崎
	第 7回 ～ 第１５回　3年生が行う各臨地実習施設での実習内容についての発表を聴講する。 ・病院での実習について ・健康診断センターの実習について ・検査センターの実習について ・訪問看護ステーションの実習について	榎本・千原 高崎 星野

評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験70%、講義のレポート30%、		
教科書	各領域で使用した教科書 「臨床検査技師臨地実習テキスト」医歯薬出版	参考書等	各科目の「最新臨床検査学講座」医歯薬出版
学生への メッセージ	３年次に行う臨地実習に臨むにあたり、最低限の知識・技能を持つ必要がある。また「医療人」として現場に出るための人間性も必要とされる。その総合的な評価のための科目であることを自覚し臨んでほしい。		